2012 年度 小委員会活動成果報告

（2013 年 2 月 4 日作成）

小委員会名	環境心理小委員会	主 査 名：宗方 淳 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 （所属運営委員会）	環境工学委員会 （環境心理生理運営委員会）	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：松原斎樹
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 （箇条書き）	人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究の研究成果を整理・発展させる組織的取り組みを行う。 ・2009 年度 現在までの研究状況の整理、活動体制の検討 ・2010 年度 今後取り組むべき課題の検討、研究発展のための方策検討 ・2011 年度 今後取り組むべき課題の研究促進、研究発展のための方策実施（シンポ、出版等） ・2012 年度 3 年度目までの活動を継続。成果の検証・次期小委員会に向けての問題整理	
委員構成 （委員名（所属））	委員公募の有無： 有 主査：宗方 淳（千葉大学） 幹事：大石洋之（ジェイアール東日本建築設計事務所） 委員：小島隆矢（早稲田大学）、古賀誉章（東京大学）、佐野奈緒子（東京電機大学）、渡辺秀俊（文化学園大学）、槇究（実践女子大学）、高橋正樹（文化学園大学）、上野佳奈子（明治大学）、高橋浩伸（九州大学）、辻村壮平（東京大学）、橋本都子（千葉工業大学）	
設置 WG （WG 名：目的）		
2012 年度予算	58,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回（年度内計画を含む）
刊行物	
講習会	
催し物 （シンポジウム･セミナー等）	1．名称：第 12 回環境心理生理チュートリアル 参加者数 64 名 資料名：「心理評価データ分析の作法と技法」
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）	1．環境心理生理チュートリアルは、幅広い分野の参加者を得た。参加者の多くは心理評価手法を用いるが必ずしも環境工学分野の者ではなく、結果的に本小委員会の分野横断的な貢献となったと思われる。 2．次年度に向けてのチュートリアル企画について検討を行った。 3．ミニ研究会を実施し建築計画分野の若手研究者との交流を行った。
委員会活動の問題点・課題	1．チュートリアルの講師陣が固定化しつつあり、マンネリ化への対策や新たな講師陣の育成が急務である。 2．他分野交流は量的には少人数に留まっており、今後一層の拡大が求められる。

＊　小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
＊　中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用　自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	「人間・環境系を総合的に扱う環境心理研究の研究成果を整理・発展させる組織的取り組みを行う」という設置目標に対し、以下の活動を実施した。 １．環境心理生理チュートリアルは、4 年間に５回（第８回～第 12 回）実施した。５回のうち１回(第９回）は前回内容を踏襲したものを九州にて再度行う再放送であったが､それ以外の４回のテーマは｢アンケート手法｣｢自由記述｣｢調査のデザイン｣｢心理評価データの分析｣という環境心理研究を構成する様々なフェーズを取上げることとなり、結果的に研究計画の構築からデータの収集及び分析に至る流れを網羅的に把握することとなった。各回においては、これらのテーマに絡んでこれまでの研究蓄積から得られたノウハウやポイントを、通常の教科書とは異なる、研究者の生の本音を交えて、聴衆に伝授することができた。参加者は５回合計で 278 名となった。毎回とも参加者の 7~8 割は学生であり、次代を担う層へ単なる教科書的知識以上のノウハウを伝えることが出来た。 ２．上記チュートリアルで作成した講演資料は、当初からレイアウト等を統一しており、全五回の資料を統合すると 100 頁程度の蓄積となり、近い将来に出版につながることが期待されている。 ３．建築計画分野で共通する関心事を持っている空間研究小委員会の若手委員との交流会を実施し、両分野での今後の協働の可能性についてディスカッションを行った。議論においては両分野で接点を持ちうる様々な研究状況についての情報交換が行われ、他分野の視点で見た自身の分野の研究の位置づけが再確認されるなどの建設的な成果が得られた。 ４．通常環境心理生理分野で研究発表を行っていない若手研究者を招いてミニ研究会を実施し研究交流を進めた。 以上示した内容により、目標達成度は 80%程度と評価する。

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画･目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
  - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
  - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
  - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
  - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価･外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。